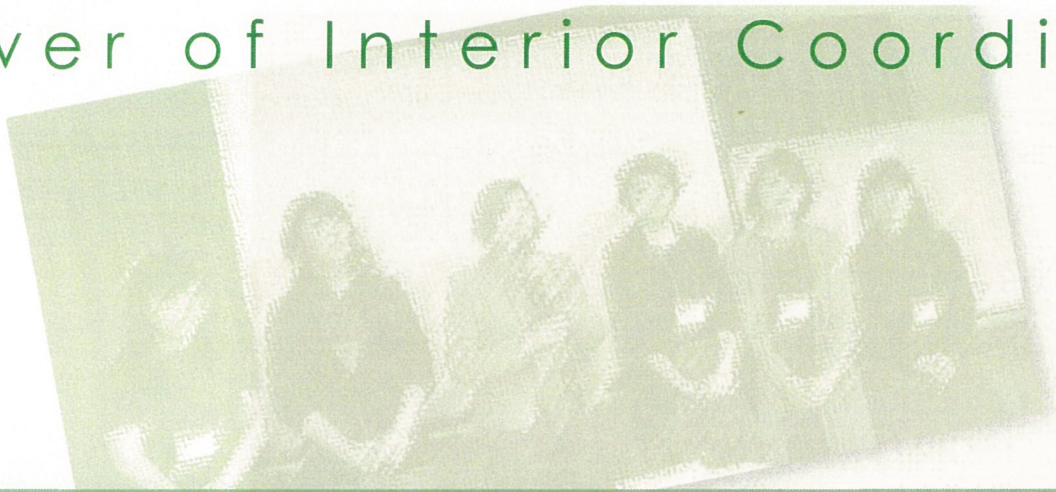


Power of Interior Coordinator



100歳住宅®

超高齢社会の『暮らしやすさ』を インテリアから考える 指標づくり

JAFICA 超高齢社会をインテリアから考える暮らしやすさ研究会

松本佳津 関口和美 田嶋由美子 白石絵理 田原亜紀 正木鈴子



INDEX

ちょイ*ラボって . . . 2

東北での暮らしをキッチンから考える 関口和美 . . . 4

インテリアに恋する女たち 田崎由美子 . . . 7

親と子と暮らす 共存するインテリア 白石絵理 . . . 10

INTERIOR CARP 広島LOVE 田部亜紀 . . . 13

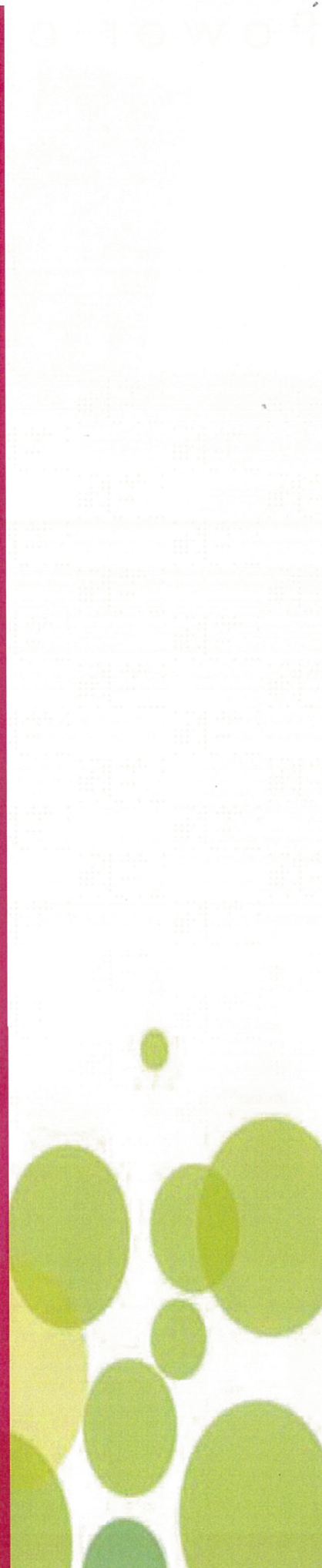
インテリアは心の処方箋 正木鈴子 . . . 16

参考書籍のご紹介 . . . 19

100歳住宅³の指標を作ろう 松本佳津 . . . 20

アンケート . . . 23

概要 . . . 30



100 歳住宅® の指標を作ろう

FINAL

住まいと共に健康で進化する人生の実現
インテリアを戦略的に活用するノウハウ

4

健康状態に合わせてのリ・プラン
主な病気とインテリアのあり方

健康状況により変わる

2

設備のメンテナンス
経年劣化 エコ観点からの設備チェック
住まいの築年数、構造により変わる

5

自分自身で手をかけられる指標
セルフDIYのすすめ やり方指南

3

レイアウト/内装のリ・プラン
年齢別 レイアウト 間取りの見直し
経年劣化による内装の見直し

経験値、得手不得手、好き嫌いによって大きく差
やり方や、出来ることからのすすめ、の作成が有効

1

構造躯体についてのメンテナンスプラン
定期的な構造のメンテナンス
(屋根・外壁・柱・外構・土台など)
住まいの築年数、構造により変わる

家族構成の変化 住居年数により変わる

【ちょイ*ラボ】って？

超（ちょう）高齢社会をインテリアから考える暮らし住みやすさ研究会（ラボラトリー）【ちょイ*ラボ】

本当に暮らしやすい、心地よい、住みやすいとは？それを示す指標づくりを目標とする JAFICA(一般社団法人日本フリーランスインテリアコーディネーター協会)の研究会として2017年度発足しました。

100歳住宅®～超高齢社会の『暮らしやすさ』をインテリアから考える・・・インテリアのチカラに着目し、暮らしの本質を探究しようとする会です。

暮らしやすい、住みよい街などのランキングを見ると外的要因（交通、商店、公共施設など）による指標だけで、家の中にまで言及しているものは皆無です。超高齢社会について研究をしている東京大学においても一般住宅の家の中については、なかなかデータを集められない、とのお話をお聞きました。一般住宅においてはリフォームのすすめ、空き家対策という大きな概念に留まっています。

2007年生まれの寿命は107歳と発表されました。(LIFE SIFT(ライフ・シフト)-100年時代の人生戦略 リンダ・グラットン、アンドリュー・スコット より)

長寿大国日本は100年生きることを前提にすべてのことを

考えていかななくてはいけない時代になりました。ここ1～2年で劇的に日本人の意識も変わってきています。しかし、住まいに関してはほとんどが手つかずという印象は否めません。今後、在宅介護や、終末期を家で迎えたい思いを、叶えるためにも100歳まで在宅を可能にする必要性を大いに感じています。さらには住宅がだぶつき気味である以上、今あるものを最大限に生かしながら、活用して行くことが不可欠です。

消費者からは、より自分たちに見合った具体的な内容を知りたい、情報が欲しいと望む声が多く寄せられています。実際、今回のアンケートにもはっきりとそのことが出ていました。

『100歳まで快適に暮らせる家』これを100歳住宅®とし、地域性を鑑みながら研究調査をすすめ、快適で豊かな人生を送るために、を目標に動きはじめました。

インテリアコーディネーターが考える指標が有効ではないか

しかし、立ち上げてきたものの指標づくりはなかなか進みません。インテリアや住まいが環境であり、思いの集積であり、家族構成が変わり、カラダが変わり、世の中が変わり……慣れすぎた住まいは、超高齢社会において何から手を付けてよいのかわからないものの最たるものかもしれません。

ここで私たちインテリアコーディネーターの未来と照らし合わせると、指標の一つ一つをひもといていくことで、私たちインテリアコーディネーターだからこそできることがおぼろげながら見えてきました。意識をしないまでも、すでに、その渦中にあり、手さぐりをしながら動いているのが現場最前線のインテリアコーディネーターの姿かもしれません。

多様性、豊かさ、情報革命……まずは時代の大きな流れ、世の中を俯瞰してみることで、これが大きな幹でありここからスタートです。枝葉ばかりに気をとられることなくシンプルに大きな流れをつかむことが重要だということ。そうでなければ、このスピード感の速い時代、すぐ道を外れてしまう恐れがあります。

ところが、これは壮大なテーマであり、今まで日本が直面したことのない状況であり、そう簡単に答えは見つかりません。指標を作るにあたり、様々な問題にもぶち当たりました。非常にパーソナルな事、個人差があること、若い世代にとっては将来のことでもなによりまだピンとこないこと……取り組みだした私たちでさえ、どこに向かっているのか、という声が上がることもありました。

しかし、私たちの仕事～インテリアに関わる事は、暮らしにダイレクトに響くことである以上、避けては通れないことです。「良い人生だったと思える」ことを、インテリアのいろいろな側面から取り上げることは、大いにヒントになるのではと確信しています。

この一年での取り組みで、家の中、レイアウトや機能性のあるインテリアの活用など時系列に沿っての指標づくりは我々インテリアコーディネーターしかできない、私たちだからこそできる具体的で、現実的、かつ分かりやすく響くもの……へのイメージを持つことが出来ました。

今後は、さらに他業界とも連携し、より具体的で活用できる指南書へと進化させたいと考えています。インテリアから考える快適で豊かな人生を、指標として具体化することにより、

インテリアコーディネーターが指南役、職域の一つとして相談窓口となり判断できる専門家となるのです。

私たちはまずアンケートをとりました。多くの方々にご協力をいただくことが出来ました。520超の回答には、まさに一人一人、自身の人生をより良いものにしたい思いがあふれています。これにはヒントがたくさんあり、私たちの取組みが非常に重要だと再認識させられました。そして、全国からヒントになりそうな事例を取り上げました。インテリアに従事する者の視点から地域性や時代性を反映した多彩な内容です。また、有識者講演を企画し、広島から発信した事にはこだわりが詰まっています。

ぜひ一緒に考えていきませんか？

今回、私たちの取組みにぜひヒントを得、気づきがあれば共有し、さらに関わる誰もが良い暮らし、楽しい人生へとなることを願っています。そのために拡散が容易で多くの方の目に留まるようにと<電子書籍>といたしました。

インテリアを新たな切り口とし、建設業や不動産業、インテリアメーカーなどにも有益な情報となり得、また一般消費者にとってもインテリアのチカラを再認識させることにつながることがゴールです。

まだまだ道半ばですが、とてもワクワクする未来を思い描いています。

私たちインテリアコーディネーターの1年の活動の軌跡です。ぜひご感想、そして、ご助言、ご意見、一緒に考えていけたらと思っています。

2018.3月 早春
ちょイ*ラボ メンバー一同

東北での暮らしを キッチンから考える

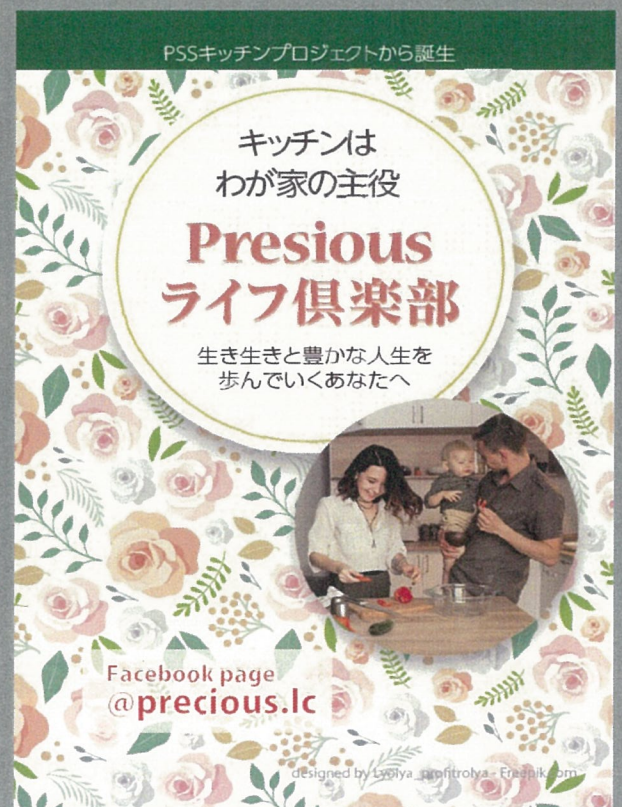
関口和美 Kazumi Sekiguchi

Interior Coordinate Works 代表

杜の都仙台、伊達なコーディネーターを目指す関口です。マルチハビテーションを活かし「都心と郊外」「日常と非日常」を暮らしに寄り添いカタチにします！



●震災をきっかけにキッチンの存在が私の重要なテーマの一つに
キッチン是我が家の主役（食がつなくコミュニケーション空間）
「PSS キッチンプロジェクト」メンバーと「プレシャスライフ倶楽部」



2011年3月11日を忘れない

東北での暮らしを考えると、忘れてはならないのが2011年3月11日に発生した東日本大震災。

多くの命と未来が一瞬で失われました。幸福な日常も、自然の猛威の前には無力でした。

地震と津波により東北地方のほぼ全域で電気、水道、都市ガス、流通や交通手段など、大規模なライフラインが途絶えてしまいました。寒さと絶望の中、震災後3日目に約8割の停電が解消しました。水道、ガスの復旧が進まぬ中、避難所には明かりが灯り、お湯を沸かすことができました。温かい食事や入浴が不安に身を寄せ合う環境で、有り難く、身に沁みました。

①キッチン是我が家の主役

(食がつながくコミュニケーション空間) <https://sumai.panasonic.jp/1712jukukan/irori-dining/>



②パナソニック「囲炉裏ダイニング」より

安全で安心な暮らし、そして誰かと一緒～当たり前な暮らしが幸福

そんな中、1978年の宮城沖地震を経験した世代は大変な状況の中でも震災の経験を活かし、貴重な存在でした。炊き出しや配給のサポートを手際よくこなし、心細い避難者には存在自体が頼もしい限りでした。

寒さや不安、不自由な仮設や避難所で「住まい」の大切さをこれほど痛感したことはありません。安全、安心な住まいは家族の絆をつながくコミュニケーション空間。まさに「100歳住宅®の暮らし」を考える大前提でした。震災以降、二世帯や、三世代の家族の住まい形態が急増しました。

一緒に料理を作り、おしゃべりをしながら食卓を囲む、あたり前であった暮らしが幸福の象徴とわかりました。一人での「孤食」は美味しくないばかりかコミュニケーション不足を招くことがわかりました。

震災をきっかけにキッチンの存在がインテリアを探索する私の重要なテーマの一つになりました。①

囲炉裏のあかりを囲んで家族や仲間と楽しんだ団らんが、現代のダイニングカウンターで集うシーンとして住まいの中心にある…そんな暮らし方が見直されています。②

料理を作る喜びは活力を、調理の手順は手先を動かし脳を活性化します。味覚、聴覚、触覚、臭覚、視覚の五感をすべて活用するキッチンで過ごす時間が暮らしの中心となると確信しています。

季節感を食卓に取り入れ、おしゃべりしながらお気に入りのインテリアコーディネートも楽しんでみませんか。

「震災を風化させないこと」 「安心安全な住まいを提供する力になること」

被災地のインテリアコーディネーターとしてのもう一つの使命は

「東北の元気と笑顔をすべての人に届けること」。



●こんな部屋いいな絵画コンテスト 2011作品より

15回目 (社)宮城インテリア産業協会 東北支部
こんな部屋いいな 絵画コンテスト!
作品募集!

きみのこんな部屋いいなという夢を素敵な発想と感性で描こう!

インテリア産業協会員を
保護する意志
絵画を通じて
子どもたちの
居ることの
大切さを
製作・展示します!

昨年は74歳から、1,568名のご応募いただきました。皆さんのご応募お待ちしております。

募集要項	募集期間	募集場所
対象年齢 小学生以上・中学生以下	2018年2月10日(土)~2018年2月23日(木)	各支店・各支部
募集作品 ① 好きな部屋を描く ② 自分のお部屋を描く ③ 自分が住みたい部屋を描く	2018年2月10日(土)~2018年2月23日(木)	各支店・各支部
募集内容 ① 好きな部屋を描く ② 自分のお部屋を描く ③ 自分が住みたい部屋を描く	2018年2月10日(土)~2018年2月23日(木)	各支店・各支部
募集期間 2018年2月10日(土)~2018年2月23日(木)		
募集場所 各支店・各支部		
募集内容 ① 好きな部屋を描く ② 自分のお部屋を描く ③ 自分が住みたい部屋を描く		
募集期間 2018年2月10日(土)~2018年2月23日(木)		
募集場所 各支店・各支部		
募集内容 ① 好きな部屋を描く ② 自分のお部屋を描く ③ 自分が住みたい部屋を描く		

作品の応募とエントリー料に別途送料を附加し、下記事務局まで送付してください。

〒982-0001 仙台市青葉区中央1-1-1 宮城インテリア産業協会 東北支部
〒980-0001 仙台市太白区中央1-1-1 宮城インテリア産業協会 仙台支部
〒980-0001 仙台市太白区中央1-1-1 宮城インテリア産業協会 仙台支部

15回目 こんな部屋いいな 絵画コンテスト!

主催：(社)宮城インテリア産業協会 東北支部

協賛：mic 株式会社 株式会社 株式会社

公認サポーター：(社)宮城インテリア産業協会 東北支部

ALBIN アイン 店舗(株)	● 家ノ(株) 仙台支店
⑤AIA アイエーアール(株)	● トキワ産業(株) 仙台支店
@UEAO 上野(株)	● (株)ニナベ 東北支店
● (株)J.W.E.L.	①日本住宅クリエーター協会の東北支部
● (株)カシマハウス カンザイ(株) 仙台支店	● 日本ペーパー工業(株) 仙台支店
● 株式会社コロン 東北支店	● パナソニック 仙台支店
● コスモ(株) 東北支店	● (株)アズスタイル(株) 仙台支店
● (株)サンパイン 東北支店	● 富士ファニチュア(株)
● (株)総合青柳 仙台支店	● 三井アインテック(株) 東北支店
● カカス(株) 東北支店	● 三井ホーム(株) 東北支店
● 立川(株) 東北支店	● LIXIL エルメス(株)
● (株)デザインシステムズ	● (株)LIXIL 東北支店
● (株)デザインワーク 東北支店	● (株)カワチ 東北支店
● トレーナー(株) 東北支店	● (株)AQUA 仙台支店
TOTO TOTO(株) 東北支店	● (株)東亜化学工業株式会社

● 15 回目を迎えた作品は約 23,300 点を超えました。宮城インテリアコーディネーター倶楽部 <http://miyagi-ic.com/>

東日本大震災から 7 年が経過し、課題やニーズも変化しています。未来のために「震災を風化させないこと」「安心安全な住まいを提供する力になること」それは被災地のインテリアコーディネーターとしての使命です。そしてもう一つの使命は「東北の元気と笑顔をすべての人に届けること」。

以前から子どもたちの素直な感性と夢いっぱい部屋を絵画に表現してもらってイベントを宮城インテリアコーディネーター倶楽部では 2002 年から開催してきました。

子どもたちの笑顔には希望へのチカラが溢れています。それならばインテリアのチカラで子どもたちを笑顔にしようと継続して取り組んできました。

しかし 2011 年、家族や住まいを失った子どもたちに作品を

描いてもらうことなどできるだろうか。厳しい現実を前にイベントは中止すべき、との意見が多い中、初心に帰り、思い出しました。この企画はインテリアのチカラで子どもたちを笑顔にするためだったのだと。

支援を受け、沿岸部の学校には絵具や筆、画用紙を出来る限り送りました。折り返すように信じられないほどの素敵な絵が届きました。家族や動物と笑顔で暮らす部屋。一枚でも多くの作品をたくさんの人に見てもらおう。明るく元気あふれる作品に誰もがパワーをもらった気がしました。● 2018 年 2 月。15 回目を迎えた作品は約 23,300 点を超えました。●

「こんな部屋いいな」はこれからもインテリアのチカラで全ての世代に笑顔を届け続けます。



インテリアに恋する 女たち

田崎由美子 Yumiko Tasaki

長崎県生まれ。長崎在住。

YUMIKO TASAKI DESIGN ROOM 主宰 <http://www.yt-dr.com/>

JAFICA バルセロナペンションリノベプロジェクトに参加。
タイル、壁紙などマテリアルを生かした個性的なデザインで
インテリアコーディネートを全国展開している。



横浜女子の決断。

わたしね、福岡の糸島に移住したいの

ともすれば仕事とプライベートのバランスを失いやすい職業とも言えるインテリアコーディネーターというカタカナ職業に私は長崎という街で20数年就いている。

子育てをほぼ終えたタイミングで研修やコーディネートするものの買付けで上京するところが多くなった。そこで仲良くなった同世代の松永真由美というインテリアコーディネーター。

横浜在住の彼女から、五反田駅前の立飲みハイボール屋さんで『わたしね、福岡の糸島に移住して、そこでIC（インテリアコーディネーター、以下IC）の仕事をして行きたいのー♡』と、妄想とも夢ともつかない願望を聞いたのだ。

『ハイハイ、東京のひとはそういうけど、こんなキラキラした街から九州のど田舎に本気で移住するわけないんよねー。もう少しおばあちゃんとかないとあるかもだけど。』と正直思った。



松永真由美さん 福岡・東京 MAY Design メイデザイン インテリアコーディネーター <http://4mana.com/>
プロが教えるおしゃれな部屋の実例・作り方 HP は必見！

が、その日から四年後、ホントにご夫婦で移住してきた。

すごいで、松永真由美！（笑）

しかも横浜での住まいのマンションは、賃貸にもかかわらず、オシャレにフルリノベーションされえおり、その空間は IC の間でもいつも話題になるほど。

今日は、その松永真由美さんにインタビューしてみたいと思います。

田崎 『ホントに来ちゃったのね（笑）』

松永 『来ちゃいましたよ（笑）』

田崎 『移住して、まだ4カ月くらいですが、都心と九州、福岡での IC の仕事の仕方の違いはありますか？』

松永 『そうですね、仕事量の母数が断然違う、ことです。しかしその分、対応する側のインテリアのプロの母数も断然違いますよね。』

田崎 『比率は同等なのかは不明だけど、たしかにインテリアに興味や資力を注げるお客さまの母数は違いますよね～フリーの IC の活躍の場も然り。』

松永 『今までの東京ならではのインテリアや空間やお客さまへの提案。

その経験が福岡の素直で協力的なお客さまのお役に立てそうだな、と実感しつつありますね。』

田崎 『洗練された東京っぽいコーディネートはわたしもぜひ盗みたいです（笑）』

全く新しい環境で挑戦してみたいことはありますか？』

松永 『ホームページやブログや FB やインスタなどを有効的に使って、丁寧な松永真由美のインテリアに対する世界観を発信し続けていきたいです。』

田崎 『東京では大手の会社の専属 IC という立場も多かったと思いますが、これからは IC 松永真由美の世界が色濃く出てきそうですね』

松永 『「一般の人が気軽に IC に仕事を頼める」ように発信していこうと。』

田崎 『IC が一緒に底上げをしていき、それぞれの個性で発信していくのが大事よね。選ばれる IC。』

松永 『九州からもそういう IC が出てきて、九州の IC は質が高い！！と全国区になると嬉しいですね』

外からの視点で客観的に見ること。

———松永真由美は自分のことだけでなく、九州の IC のことも考えてくれる！さすがだぜ、松永真由美！

IC という仕事は新しい情報やマテリアルや建築の知識の習得は必須。

そのためには東京という街でインプットして、フィードバックしながら絶えず刺激的な情報で自分もお客さまをも魅了し続けなくちゃ！

松永 『そんなことをできてるのは、「東京」という場所を一旦離れて、外からの視点で客観的に見ることができる「九州」という地ならではの可能になる、新たな挑戦ではないかと、信じています。』

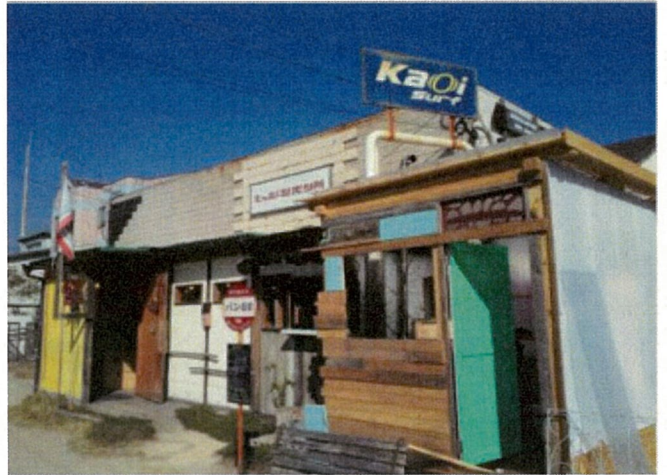
しかし、実際にこんなに大きく実行できる人は少ない。

まずは自分の環境コーディネート。
40代後半、
今まで築いてきた仕事や環境を見直す

松永真由美は丁寧に生活し、その中で自分のペースを作るIC。だからこそ、自分の環境をもコーディネートしたのかもしれない。
九州のICに足りないものも、もう少ししたら教えてもらえるかもしれません。

人生100年と言われる昨今、50歳を一区切りに今まで築いてきた仕事のやり方や環境を見直すという機会を誰しもが少しは考えていると思う。

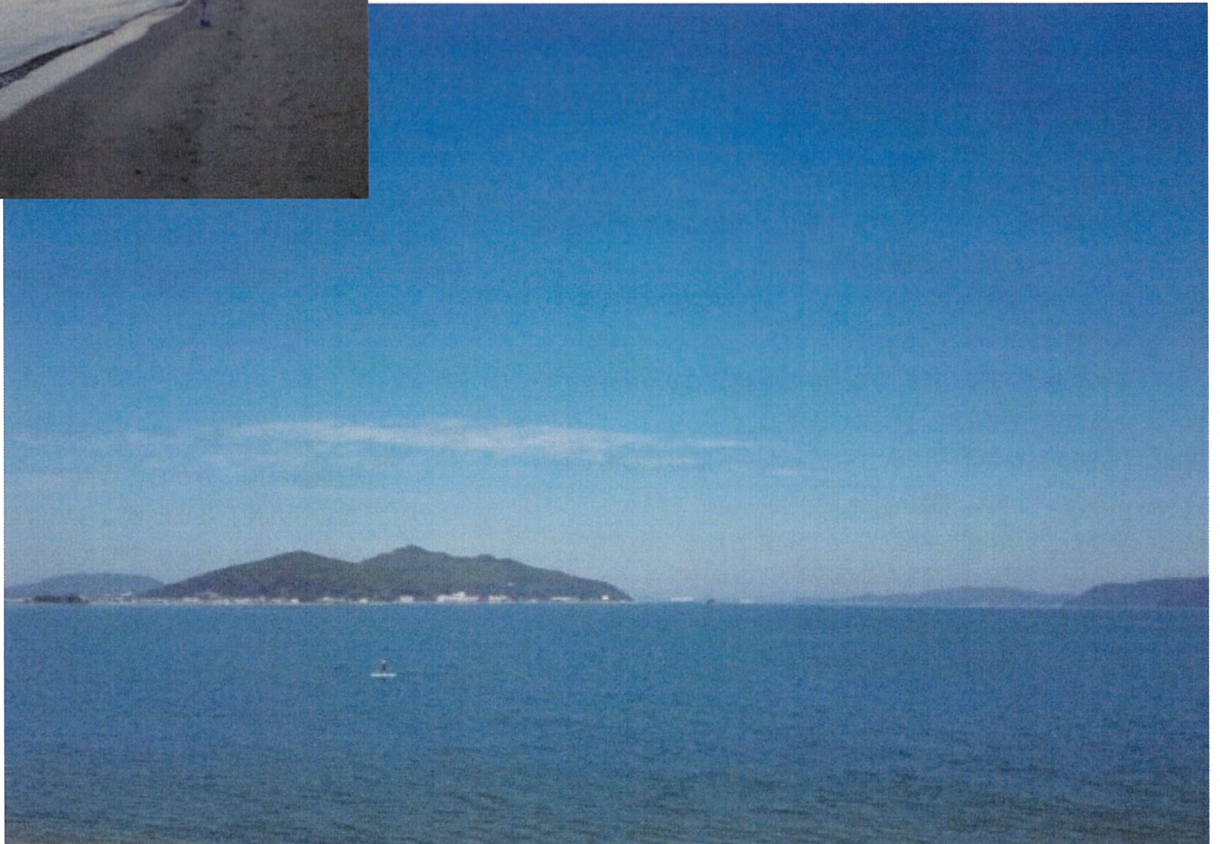
しかし、実際にこんなに大きく実行できる人は少ない。



それを軽やかにやってのけた松永真由美。やはり、60歳では地域と仕事を含めたコミュニティでの順応は、シニア世代になってしまうかもしれない。

40代後半であれば、第一次取得層（初めて住宅を購入した世帯）との世代間ギャップもそれほど違和感なく受け入れるだろう。

インテリアコーディネーターと言う仕事はこうすれば大成功する、という明確なやり方はないけれど、逆を言えばどこでもいつでもできる、ということ、証明してくれそうな期待でワクワクなのだ。





親と子と暮らす 共存するインテリア

白石絵理 Eri Shiraishi

ERI DESIGN ROOM 代表 <http://www.eri-s.com>

見せたくないソコが快適のミソ！！

「お家の中で見せたくないところから見せてください！」

を第一声に数多くの暮らし方を検証。

ありのままの暮らし方を踏み込んで生活検証をすることで

その人ならではのステキ心地よい空間の提案を得意とし、

店舗&住宅の新築やリフォームのプランニング、インテリア提案、

照明計画、整理収納アドバイスなど新潟を拠点に活動。

あなたにとっての「いい家」ってなんですか？



各家庭、色々な生活スタイルがありますよね。子沢山で賑やかなお家。夫婦2人の生活を楽しむお家。1人暮らしをエンジョイする。3世代、4世代みんなで暮らす。共働きで活動的なお家。趣味を楽しむお家。

「いい家ってなんですか？」よく私がお客様に問いかける言葉です。住まう人にとっての「いい家」ってそれぞれ違いますし、今の暮らしがあって、それよりもっと居心地の良い空間になり、ワクワクや楽しいが増えることも大事なのだと思います。



集う家

我が家は本当に来客が多いんです。
ありがたいことに人が集まる。
そして、子どもである娘以外の家族親族は酒飲みばかり。
宴会も多い。
季節によっては親戚が集結し、家族&子どもを含めると総勢20人越えで大宴会が催されることもある。

集まって飲食するのが好きなんですよね。

そして、親戚だけでなく知人友人ご近所、集会所化していることもたまにあたりして、家族それぞれ人を招くのが好きだったりする。

我が家の楽しいとかワクワクは・・・
人を招いて宴会したいよね！
家族が集まる場所はやっぱりダイニングだよね！
大勢来てもへっちゃらっていいよね！

楽しいは家族の元気のもと

農業を営む主人の両親と同居して今年で20年になります。

嫁いってから15年がすぎ、典型的な田舎の農家本家の古家、義両親が建てた築36年の家を建替えました。義両親はもちろん、娘にとっても愛着のあった旧家。

家族の大きなライフステージとなりました。



両親、子ども、夫婦、私たち家族にとって必要なインテリアを考えた時に必要不可欠だったアイテムは、みんなが集える大きなテーブルでした。

住まいの中心に大きなテーブルがあることで、家族が、親戚や友人知人、隣近所とのコミュニケーションにつながる。

インテリアが変化したことで、今まで以上に人が集う空間となりました。

超高齢社会を考える今、向き合う事は、住まう人が暮らす空間でいかに心地良く暮らしていけるかという事が大事なのだと思います。

多世帯の暮らしで多く取り上げられるバリアフリーなど、目に見える行動的暮らしやすさが取り上げられがちですが、心や気持ちに沿ったインテリア視点から提案する心地良さの追求は、今後、バリアフリー以上に求められることだと確信しています。



要となるオリジナルのテーブルづくりは、1枚の木板を探すところからスタート！

材木問屋さんを何件も見て回り、展示会やショップにも足を運び、何ヶ月もかかってようやく出逢えた1枚板！（幅80cm 長さ4m）

向かい合わせに座ると程良い近さでコミュニケーションがとりやすい。この板に毎日触れながら3世代が時を過ごしています。



介護が必要になった時にコミュニケーションがとりやすよう、義両親の寝室は廊下を挟んで家族が集うリビングの横にあります。必要に応じて寝室とリビングを直接つなげられるよう、廊下に面した壁は床&天井勝ち（壁が撤去できるよう）にしてあります。

INTRIOR CARP 広島LOVE



田部亜紀 Aki Tanabe

有限会社アートソーイングたなべ 取締役専務 <http://astanabe.com/>

インテリアコーディネーター、整理収納アドバイザー 1 級、
福祉住環境コーディネーター 2 級、DIY リフォームアドバイザー、
グリーンデザインアドバイザー

オーダーカーテンの縫製を手掛けること 23 年。カーテンメーカー、
ハウスメーカー、地元工務店、エンドユーザー様より窓装飾全般のご
注文をいただいています。提案から仕立て取付まで携わらせていただき
ます。ものづくりが好きです。

日本人の復興の原点 広島に見るインテリアのチカラ

2014 年 2 月 14 日（水）広島市まちづくり市民交流プラザ研
修室にて『チョコよりちょイネラボ』を開催しました。

超高齢社会をインテリアのチカラで楽しく！おもしろく！
100 歳住宅～超高齢社会の「暮らしやすさ」をインテリアから
考える～みんなちがう、多世帯住宅のカタチとキモチ～

■日時 2月14日（水）参加無料 定員 50 名

■場所 広島市まちづくり市民交流プラザ 北棟 研修室C
公益社団法人インテリア産業協会研究助成事業として
開催しました。

この施設は、世界遺産の原爆ドームをはじめ旧日本銀行広島支
店、広島アンデルセンなど多くの被爆建物が残る学区にある袋
町小学校の敷地内にある複合施設です。

「超高齢社会での IC（インテリアコーディネーター）の役割」
というタイトルにて、地元広島でインテリアコーディネーター
養成講座を開講している株式会社住宅デザイン研究所代表取締役
金堀健一氏に講演していただきました。

これから残る職業としてインテリアコーディネーターが挙げ
られている、コミュニケーションの担い手として重要であるこ
とから始まりました。

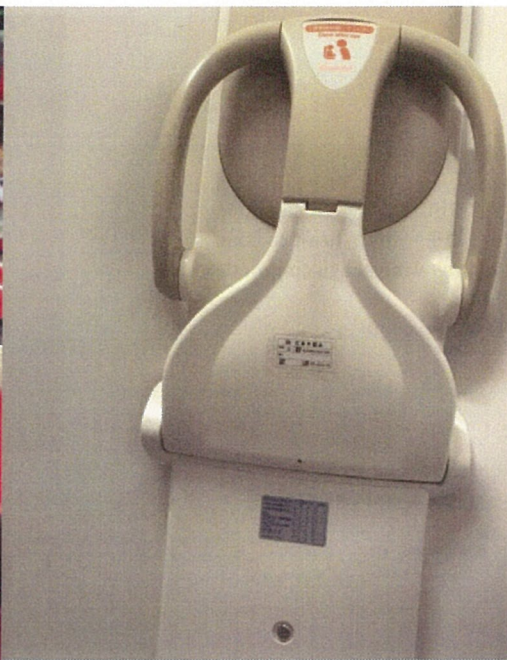
超高齢社会に対する私たちのアプローチとして、住まわれる
方が高齢者だから寝室は 1 階へ、廊下やトイレには手摺を付け
る、バリアフリーにするといった提案ばかりでは、まだまだ元
気な高齢者にとって自ら体機能を衰えさせてしまい環境から老
いを迫らせるように思える。

それよりも、ほんとうに必要となった時に対応できるプラン
を提案したいと考えているとのこと。

例えば寝室にトイレ、リビング廊下にホームエレベーターを設
置するスペースや配水配電を確保することなどです。

バリアフリーではなく、バリアアリー。





『カープ愛』を軸に暮らしをデザイン、もちろんインテリアも！

また、金堀氏はカープと広島との関わり方についても話されました。

戦後広島市内で市民による樽募金を募り再開に至ったプロ野球の広島カープは日本で唯一の市民球団であり、カープへの夢と希望により街全体が一つになりコミュニティーがいくつもつくられていると言われました。

広島には広島カープ、サンフレッチェ広島、広島ドラゴンフライズなどプロチームが多くありますが、やはりカープと地域の親しみは桁違いだと思います。私は年間10試合以上はマツダスタジアムへ足を運んでいますが、ここにはカープと地域が密着するための工夫が無限にあります。

旧市民球場と比べると、女性と若者が増えましたが一番増えたのは高齢者だそうです。それにあわせてでしょうか、旧市民球場のスタンドは急傾斜でしたが、マツダスタジアムは緩やかな階段でとても歩きやすいです。

3世代、4世代が一緒に来て楽しめる球場造りをしたそうです。コンコースは、試合を観戦しながら球場を一周できる通路ですが、そこへ並ぶ売店や子供の遊び場へ立ち寄れます。またここから座席へ入ると、ゆったりと足を下ろして座椅子に座っ

て観戦できる桟敷席が一部設置されたり、車いすスペースもあります。

また寝そべりでは、家族が寝そべて団らんしながら観戦できます。トイレの赤ちゃん用シートは広島市の備品です。

そしてもちろんインテリアの世界でもカープグッズも無限で、カーテン、たたみ、シーリングライト、チェスト、ドアクローザーなど『カープ愛』満載のカープインテリアがとても面白いです。

市内を走る路面電車やタクシーもカープデザイン。

球場へ行かれる人ばかりではないし、試合も毎日開催されるわけではない、でもいつでもどこでも、家でも学校、職場でも『カープ愛』は燃えています。

広島市の小学校では「カープ授業」があり教科書にもカープの歴史、広島県民との絆など学習しています。

カープと高齢者、カープと地域、カープとインテリア……とても深い郷土愛と共に濃い絆で結ばれていると感じました。

カープが人生のよりどころ。

これから、私も壁紙や椅子張り生地などインテリアアイテムを、高齢者施設やコミュニティ施設にも取り入れて提案しようと思います。

この広島講演会にご協力いただいた皆様

- HICA 広島県インテリアコーディネーター協会 <https://www.hica-j.info/>
- Tica.Tica INC. / 株式会社ティカ、ティカ 小田綾子 <http://tica-tica.com/>
- ミヤカグ 宮本家具製作所 松本理絵 <http://www.miyakagu.co.jp/index.htm>
- 森建築工房 森隆 <http://moriken-koubo.jp/>
- 広島東洋カーブ公式ホームページ <http://www.carp.co.jp/>



The screenshot shows the HIROSHIMA REFORM website. At the top, there is a navigation bar with the logo and several menu items: "はじめての方へ", "リフォーム 実例写真集", "リフォーム お役立ちコラム", "頼れる リフォーム会社", "リフォーム会社 イベント情報", and "リフォーム雑誌 最新号". Below the navigation bar, the main content area features a blog post titled "超高齢社会を考える" (Thinking about the super-aged society) dated 2018.02.21. The post includes a large photo of a seminar in progress, with a presentation screen in the background displaying the title and some text. To the right of the main content, there is a sidebar with a list of recent dates and titles, such as "2018.03.01 リフォームチラシの裏側解説" and "2018.02.21 超高齢社会を考える". Below the sidebar, there is a section titled "最新リフォーム写真集" (Latest Reform Photo Album) with two small thumbnail images of interior spaces.

主催者の名前が長いので、超（ちょう）高齢社会をインテリアから考える暮らし住みやすさ研究会（ラボラトリー）から、「ちょいらボ」と呼ばれているようです。

人口に占める 65 歳以上の割合が 7% で高齢化社会、14% で高齢社会、そして 21% 以上を超えると超高齢社会というそうです。

広島県では 27% を超えているようで、超高齢社会となります。

2030 年には日本国内で高齢化率が 31.8%、2050 年には 39.6% という予測も出ているようです。

下記の画像は日本を表す数値として紹介されましたが、高齢者という言葉には介護ばかりがクローズアップされるが、8 割の方は元気であるとのこと。

また、画像の右側に、2007 年生まれの日本人の寿命は 107 歳と紹介されています。医療などの発達でどんどん長生きするという予測があるとのこと。すごい時代に突入していることを感じます。

セミナーの内容としては、超高齢社会におけるインテリアコーディネーターの役割を考えていくもので、多くのコーディネーターがそれぞれの取り組みや考え方を発表されており、とても勉強になりました。

印象的だったのは、高齢者のためにバリアフリーが良いと思われているが、介護をした経験ではバリアはあった方が良いと思っているというコーディネーターの話でした。

バリアフリーではなく、バリアアリー。編集部としても興味のある内容なので、少し調べて行きたいと思います。

HIROSHIMA REFORM様ブログで取り上げてくださいました。

<https://www.h-reform-zasshi.com/>

インテリアは心の処方箋

正木 鈴子 Suzuko Masaki

インテリア・オフィス-ミュゲ 代表

福岡県太宰府市生まれ。

父の仕事の関係で静岡県沼津市内で学生時代を過ごす。結婚後、夫の生家である伊豆（賀茂郡河津町）に移住。建設会社・工務店・デザイン設計事務所勤務を経て2009年よりフリーランス。



介護する側から

「インテリアは心の処方箋」

この言葉は私がお客様にお伝えしている事です。

皆様は、自分の心や生活に何だかザワザワとした感じを持つことはありませんか？

そのような時に、『ストレス解消』と言って、買い物や食事をするがあると思いますが、お部屋の中が散らかっていたり、自分の好きな空間ではない事に気が付いていますか？

当たり前のことですが、お部屋が散らかっていたり、好きな空間でない事がストレスの原因だったりする事ってありますよね。そんな時、インテリアを少し気にしてみることで解決できることが沢山あります。

『高齢者のインテリアを考える』という観点から考えると、介護される立場ではなく、介護する側の立場のストレスも沢山あると思います。

実の親子でも大変だと思いますが、嫁姑となると結構きついんですよね。仲が良ければ少しはいいのですが、仲が悪ければ最悪です。

「何故この人の介護を私がしなければいけないの？」と泣きたくなくなります。



逆転の発想で

そこで逆転の発想のご提案です。自分がそのお部屋に入るのが楽しくなるようなお部屋にすればいいのです。介護していても楽しくなるようなお部屋に！

実際に姑の介護で大変な苦勞をした自分ですが、この方法で何とか介護を乗り越えることが出来ました。

もちろん、その空間で生活するのは姑なので、そのことも考慮しなくてはなりません。



車いす対応の廊下



広々玄関

高齢者のお部屋にあって良かったもの

例えば、超高齢になると一日の大半を寝て過ごすので、
ベッドで寝ている姿勢で

その空間のインテリアが寝ている姑の目に
どう映って見えるのか、

時間や季節によってどう変わって見えるのか

等を考えたうえでインテリアを作り上げていきました。
そうすることにより、一層楽しく過ごせるお部屋となり、残り
少ない時間を楽しんでいたように感じました。

私が実践して感じた事は、どんなに悲しくて辛くても、その
空間にいて救われる事が沢山あるのだという事でした。

本当に【インテリアは心の処方箋】だというお話。

『高齢者のお部屋にあって良かったもの』としては、、、

① 連れ合いの写真（我が家場合、先立たれた舅の写真）
→生前夫婦仲が悪かったのですが、長年連れ添った人が誰なの
かを記憶させるという意味でも。

② 孫や娘たちからのグリーティングカード
→自分が慕われているという気持ちが、プライドの高い姑に心
の潤いを与えていたようです。

③ かわいらしいカーテン
→介護される姑はお花に囲まれている気分だと言った事。

2世帯同居を想定した提案事例として……

『2世帯同居～高齢者になった時を想定した提案事例』として

今現在は子育て真っ最中のお客様ですが、お打合せの中でちょっとした世間話から、

「今は良いけど、親の介護が必要になった時は、それに合わせた家をまた頑張って建てるとするか」と仰るお客様に、「ご予算と土地に少し余裕があるのであれば、おうちの中のスペースにも余裕を持たせてみては如何でしょうか？」

というご提案で実現したお宅の事例です。

家の中で、スペースに余裕を持たせたい場所として、『玄関・

廊下・お風呂・洗面脱衣室・トイレ』等が挙げられますが、そこはご予算と相談しながら決めていきました。

私が姑を介護していて特に広いと良いなと感じたのは、〈玄関・廊下・トイレ〉です。

我が家の場合は、築80年の古民家なので一般家庭よりは少し広く、介助をする際にとても有難く感じました。

そのような経験から、将来的に2世帯同居を視野にされているお客様に関しては、〈玄関・廊下・トイレ〉は、スペースを広くとる事をご提案しています。



車いすが楽々回転できるトイレ

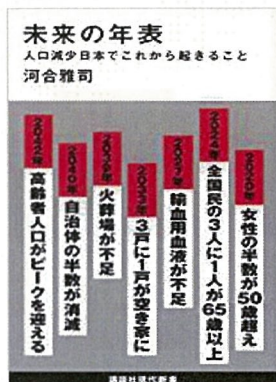
参考書籍のご紹介



関係人口をつくる
一定住でも交流でもないローカルイノベーション
田中輝美 シーズ総合政策研究所



関係人口入門 雑誌



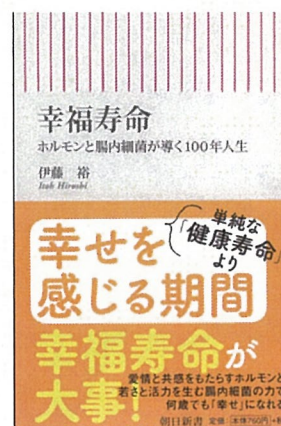
未来の年表
人口減少日本でこれから起きること
(講談社現代新書)
河合 雅司



東大が考える 100歳までの人生設計 ヘルシーエイジング
東京大学高齢社会総合研究機構 (監修)



LIFE SHIFT(ライフ・シフト)
リンダ グラットン



幸福寿命
ホルモンと腸内細菌が導く 100年人生
(朝日新聞出版)
伊藤 裕

100 歳住宅®の指標を作ろう

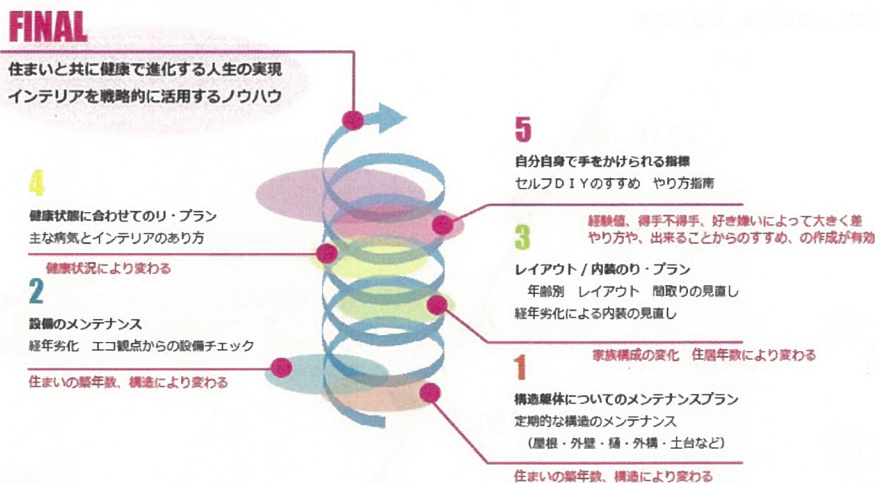
松本佳津 Kaz Matsumoto ちょイ*ラボ リーダー

(株)マツドットコムアイエヌジー取締役 www.51matsu.com
愛知淑徳大学創造表現学部建築インテリアデザイン専攻 教授
インテリアデザイナー&コーディネーター



約 10 年前、介護予防研究会を立ち上げ異業種のメンバーとジェロントロジー（老人学）、これからの日本の住まいのあり方を模索、その後大学のゼミテーマ「超高齢社会のインテリアのあり方」に引き継ぎ研究を続けている。大学ゼミでの取り組みは 2015.2016 年度公益社団法人インテリア産業協会の研究助成採択。人生 100 歳時代を迎え、よりどころとなる指標の必要性を感じ、2017 年度は同業 I C と共にちょイ*ラボを立ち上げ、指標づくりに着手。

100 歳住宅®の指標を作ろう



100 歳まで愉しく暮らせる住まいの指標として 6 つの分野から作成しようとして、今年度は主に

【FINAL】 住まいと共に健康で進化する人生の実現 インテリアを戦略的に活用するノウハウ、という視点から試作作成

1 構造躯体についてのメンテナンス

木造か R C か 鉄骨造か によって期間対策がわかる

2 設備のメンテナンス

経年劣化 エコの観点からの設備チェック

A I, コンピューター制御、Blue Tooth 活用、スマホとの連動など、ここ数年でがらりと変わりそうな気配があり、多角的な視点からのチェックが必須となる。設備に関しては、設備メーカーの保証状況、手引きや、住宅長期保証支援センターはじめ、建設業、設備施工業関連業者の HP 等でメンテナンスチェック表が出回っているので参考にされたい。

3 レイアウト、内装のり・プラン

年齢別 レイアウト 間取りの見直し 経年劣化による内装の見直しはこちらもメンテナンス表が出回っているので自身の経験値をプラスし、オリジナルで作成することで目安にする。

4 健康状態に合わせてのり・プラン

主な病気とインテリアのあり方

健康状態のチェックおよび予測が重要となり、非常にパーソナルな問題となるので、医療機関、ケアマネとの連携が必須となる。さらに、健康状態

がこれ以上悪くならないこと、元気な状況を保つためのインテリア、という切り口も有効かと思われる。

先手を打つインテリアの研究を続けていきたい。

5 自分自身で手をかけられる指標

セルフDIYのすすめ やり方指南

経験値、得手不得手、好き嫌いによって大きく差が付くことだが自身で考え少しずつでもできることは、自身の環境整備にもなり脳トレにもつながる。初級中級でできることのやり方や、DIYのすすめ、の作成が有効と思われる。インテリアコーディネートの手法も含め啓蒙の仕方をもまとめていきたい。

できること、やれることの難易度、おおよその時間、準備などこまやかな情報が望まれると思われる。今後の課題としたい。

指標作成にあたり、住まい、インテリアがまず、人ありきであることから、特に高齢者になるにつれ非常に個人差が大きくなる。よって、かなりパーソナルなことを考慮しないといけないことが判明した。

しかし、これこそ、インテリアコーディネーターのヒアリングおよびコミュニケーションの要点として気を配り、深掘する事項となりえるように感じられる。

指標 Image Map

<指標例1 木造>

築年数 軸



①②構造躯体設備メンテナンス

- 10年ごとに 基礎（白アリ）、屋根、外壁の目視による調査、浮きやコーキングのキレなど特に取り合い部分等
- 20年ごとに 樋、サッシ（窓廻り）、ライフラインの検査、見直し（水回り、給排水配管、ガス、電気等）

※住まいの検査履歴書等の作成

※住まいの相談役として長いお付き合いが出来るよ！ ドクターのような存在に

<指標例2 パーソナル>

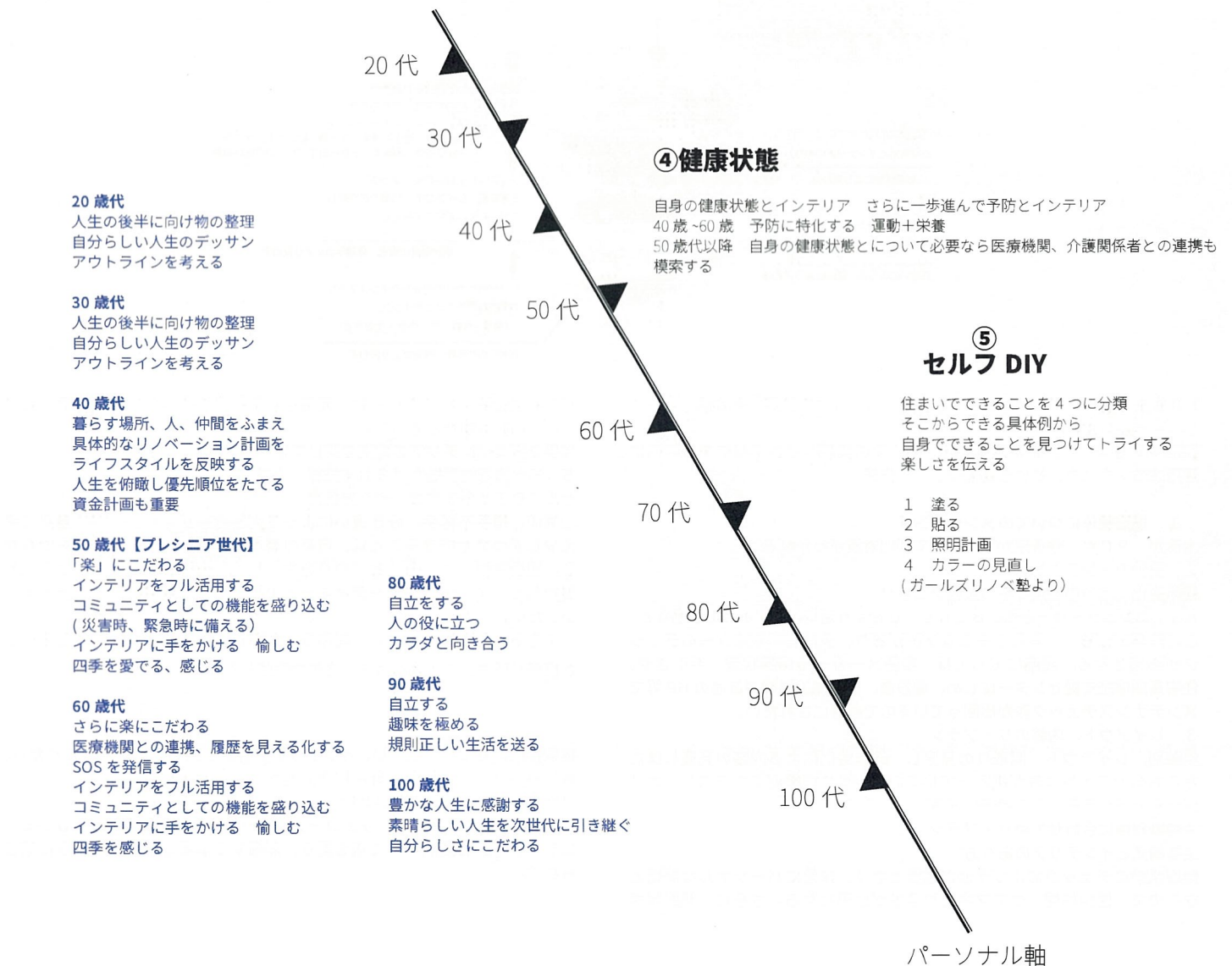
③レイアウト リ・プラン

レイアウト 間取りの見直し

年齢別 お子様の節目（個室の必要性） 家族の変化 特におひとり様になる可能性を見据えた住まいづくりのあり方のポイント

経年劣化による内装の見直し

内装材の機能やメンテナンスの正しい情報収集 および選択



100歳住宅®への指標年表を作ろう

住まい・インテリアと共に健康で進化する人生の実現
インテリアを戦略的に活用する



20 歳代

人生の後半に向け物の整理
自分らしい人生のデッサン アウトライン
を考える

CHECK!

東北での暮らしを
キッチンから考える

関口和美
コラムを参考に!

30 歳代

人生の後半に向け物の整理
自分らしい人生のデッサン アウトラインを考える

CHECK!

親と子と暮らす
共存するインテリア

白石絵理
レポートを参考に!

40 歳代

暮らす場所、人、仲間をふまえて
具体的なリノベーション計画を
ライフスタイルを反映する
人生を俯瞰し優先順位をたてる
資金計画も重要

CHECK!

インテリアに恋する女たち

田崎由美子
レポートを参考に!

50 歳代【プレシニア世代】

「楽」にこだわる
インテリアをフル活用する
コミュニティとしての機能を盛り込む
(災害時、緊急時に備える)
インテリアに手をかける 愉しむ
四季を愛でる、感じる

CHECK!

インテリアは
心の処方箋

正木鈴子
コラムを参考に!

60 歳代

さらに楽にこだわる
医療機関との連携、履歴が見える化する
SOSを発信する
インテリアをフル活用する
コミュニティとしての機能を盛り込む
インテリアに手をかける 愉しむ
四季を感じる

70 歳代

おしゃれをする
インテリアを整える
物の執着をなくす
シンプルに徹する
人と交流する
四季を感じる



80 歳代

自立をする
人の役に立つ
カラダと向き合う

90 歳代

自立する
趣味を極める
規則正しい生活を送る

CHECK!

INTRIOR CARP 広島LOVE

田部亜紀レポートを参考に!

100 歳代

豊かな人生に感謝する
素晴らしい人生を次世代に引き継ぐ
自分らしさにこだわる



アンケート

指標づくりの参考にとアンケートを実施しました。

目標 500 とし、FACEBOOK、メルマガ等にもご協力をいただき 2 週間行いました。以下結果です。

【アクセスデータ】

■アクセス数 4855 有効回答 523 ■男女比 男性 41% 女性 59% ■エリア分布 全国 ■期間 2 週間【9/20-10/10 まで】

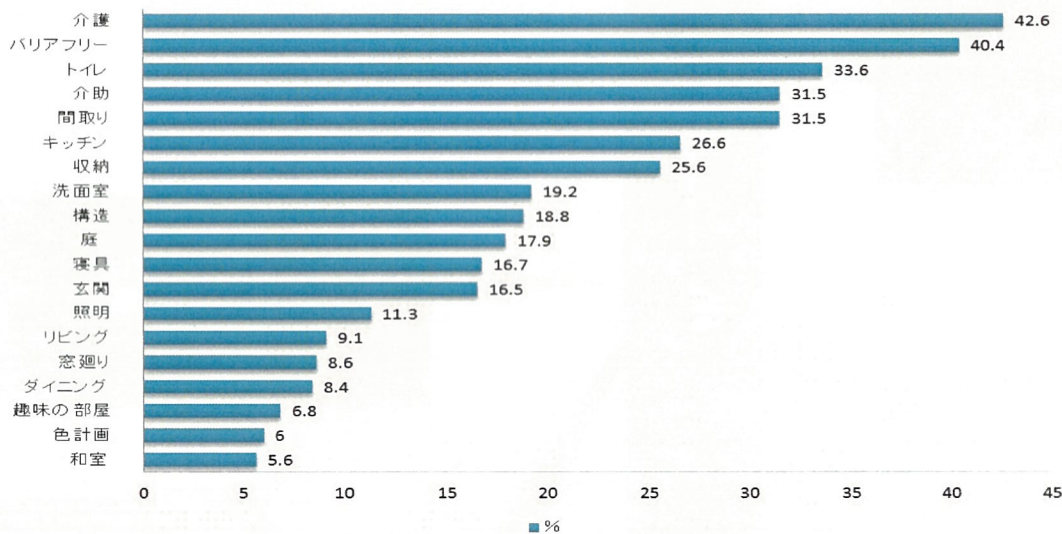
私たちは、日本フリーランスインテリアコーディネーター協会（JAFICA）に所属する 超高齢社会をインテリアから考える研究会 です。日本人の寿命が劇的に伸び、100 歳を視野に入れた住まいのあり方を模索し、具体的な指標を作ろうと研究をしています。そこで、現状をきちんとつかみたいと思いいアンケートをお願いします。アンケートは、年代、性別等を問わず、無記名で、およそ 10 分程度の内容です。ぜひご協力をお願いいたします。

Q1.

現在、または将来的に起こりうる住まいの悩みがあるとすればなんですか。以下よりお選びください。その他にチェックを付けた方、具体的に記述をいただけるとうれしいです。

現実の問題点のあぶり出しを期待した質問。介護に関する項目が上位にきました。5 位の間取りはリノベーションの大きな課題でもあるのでインテリアから考える上で重要だと再認識しました。

①介護 ②バリアフリー ③トイレ ④介助 ⑤間取り



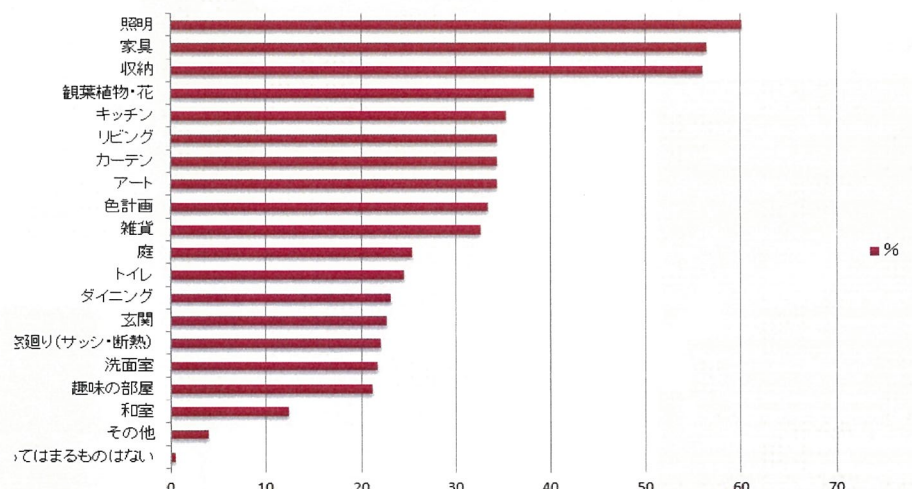
Q2.

インテリアについて 興味のあることをお知らせください。

その他にチェックを付けた方、具体的に記述をいただけるとうれしいです。

インテリアに対する興味を促進すること、本音のリサーチのための質問です。インテリアにできること、インテリアの啓蒙に非常に興味深い回答が出そろいました。

①照明 ②家具 ③収納



Q6 あなた自身は何歳まで生きる、生きたいと思っていらっしゃいますか。

寿命との誤差、最後は自分で決められない事の自覚を促すための質問

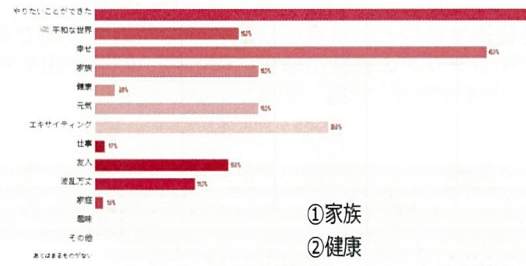
① 80代② 70代③ 90代

Q7 日本人の理想的寿命は何歳台だと思いでしょか。男女平均でお答えください。

日本人の人生の長さ感覚の調査 実際は100歳近くまでのライフプランが必要なので

① 80代② 90代③ 70代

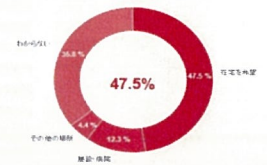
Q8 良い人生だったと思える条件を選ぶとするとなんでしょう。そのキーワードを下記より3つだけお選びください。その他にチェックを付けた方、具体的な記述をお願いします。



- ①家族
- ②健康
- ③やりたいことが出来た

Q9. 在宅、ご自身の家で人生の最期を迎える、ご自身の家で人生を全うしたいとお思いでしょか。

1. 在宅 2. 施設病院 3. その他



Q6 解答(全文)
お掃除ロボット君がいてくれたらいいですね。家の中はもちろん、庭の草むしりなどをしてくれるロボット君です。
滞在時間の多いLDKのインテリアを充実したい
アート
すべてが古いので、新しいもの
雨漏りしない
駅近・買物の便・近所の雰囲気。
安全性(防犯・地震・風災に対する)・外壁・屋根 塗装
安心安全、快適性
安心感、安定感
安全で便利である。使い勝手が良い。
安全と寛ぎ
安全性(転んでも痛くない床、怪我をしない床)
安全性と快適性
安全性と社会性
高齢者の安全快適清潔、過ごし易さ
居心地
居心地がいいこと
居心地のよさ。使いやすさ。寒暖対策
居心地の良いスペース作り
居心地の良いリビング
居心地の良い場所
居心地の良さ
かわいさ
スタイルに合わせたリフォーム
デザイン性
ミニマリズム
温かさがあって落ち着く空間であること
金額やスタイルにとらわれず、自分や家族が幸せ・心地よいと思えるエレメントに囲まれて暮らす
最低限のインテリア、シンプルな生活
最低限必要なもので暮らすこと。
自分の望むインテリア空間。例えば家具やカーテンなど気に入ったものに包まれながら生活することで、心の豊かさを得ていくこと。
毎日見ている、飽きの来ない、本物を選ぶこと
いややし
やすらぎ、安全、家族の笑顔
やすらぎや、ほっとする空間
ゆっくり休めるリビング
リラクセスできる場所
安らぎ
安らぎ
安らぎ
安堵感
一息つける空間が必要
家にいる時間
家に居たいと思うような居心地のよさ
休息できる癒しの空間
居住空間としての快適性、遊び心。楽しく、癒される雰囲気作り。
自分が家を好きになれること
自由な空間
笑顔
笑顔
笑顔
木造の快適さに慣れているので、和室空間を大事にしたい。
癒される空間、お掃除が簡単にできる事。
癒し
落ち着く空間
落ち着ける空間かどうか
落ち着ける場所
色計画
色計画 設備の使いやすさ 高気密

ガーデニング
お金
お金
お金
お金
お金と計画と健康
介護 最後まで、トイレとお風呂をたのしんでほしい。ポータブルトイレとベッド。そこにカーテン、そしてトイレ、洗面所を近くに配置、台所、リビングの使いやすい高さが、健康寿命につながる。母は足腰が痛くても、家では生活のために動いている。でも、高さが調整できたら、いいと思う。
介護のための間取り
快適、安全風呂、トイレ、洗面所、台所
快適さ
快適なこと
快適な住まい
快適な睡眠がとれること
快適な睡眠の確保。
快適性と安全
明るく心地よいと思える室内環境
明るさ
明るさの確保
面倒にならないこと
楽しく家事が出来ること
一緒に住んでいる家族との話し合い。
家族それぞれのちゃんとした個室
家族の快適さ、心地よさ、安心感があること。
家族の交流がしやすいこと、ゆっくりくつろげるリビング(ソファ)、1人の時間を過ごせるプライベートスペース
家族の成長に合わせての間取り変更。
家族や気の合う仲間が集って、楽しむ空間
家族構成を考えたレイアウト
家族全員分の収納スペース
子供の成長に合わせたインテリア
子供夫婦、孫達が帰省したときの寝室。孫が増え大きくなってきている。今は、私達夫婦が遊牧民のように部屋を移動しています。現在87歳の母、私達夫婦、娘が同居。帰省時、次男夫婦孫1人お腹に1人、三男夫婦孫3人。4人から12人に増員。
気節感を取り込んだ住まい方が大切。ここに住んでいる意味を感じながら。
空気、温度湿度、できれば自然で。
空気感。
空気清浄
空調
空調
空調
現在は、寒さ対策。
高気密、高断熱、計画換気
自然に変わらないうちこちより良い
自然光
自然災害の影響を受けにくい地域に住まいがある事
室温が、常に快適な温度に保たれている
室内の温度
遠音
周囲の環境
集まる空間
集中できる場があるかどうか
住まいと自然、光や壁との調整
住まいに大切な条件 → 家屋内の通風。昨今の建築は閉鎖的な要素が多くみられる。立地には制約があるために全てにとは申しませんが可能な限り自然の空気が流れる間取りが必要。
住みやすさ
除湿

除湿
除湿
静寂さ。収納場所
日当たり
買い物や通院に便利な場所に住むこと
陽当たりと風通し。
陽当たりと風通し。パッシブシステム。電気の持久力。
立地。
老朽化する住まいのメンテナンスと断熱
高齢者に向けて漸次バリアフリー化を図る。
綺麗な空気
キッチンの使いやすさ
キッチンの収納
キッチンの収納
ダイニングキッチンと広さと機能性
広いキッチン
広めのシンク
使いやすいキッチン
仕事や日常生活を効率的にすすむためにスムーズに家事ができるような家の機能をしっかりとする事
機能性
使いやすさ
使い易い収納
使い勝手、機能
くつろぎのスペース
くつろぐ事。
くつろげるスペース 収納
くつろげるソファ
くつろげるリビング
くつろげる空間
くつろげる空間
シックハウス症候群対策
ストレスフリー
温度が快適になること
屋根、外壁の塗り替え
外部の塗装
外部環境との快適な接続
もっと趣味を楽しむ
趣味の部屋
趣味の部屋
趣味の部屋
新しさ
寝室を綺麗に整え続けること
寝室改造
快眠できる環境
常に空気、人に動きがあること。時間の流れを感じる。清潔であること。
清潔さ、明るさ
清潔で安全で長持ちすること 介護にも対応できる誰でも生活できる家。明るくて快適。
清潔で使いやすい空間
うまく片付けられること
きれいであること、整っていること。つまり整理整頓された、シンプルで穏やかな空間。そしてセンスがいいこと、何もなかったとしてもセンスとオシャレさは絶対に感じる穏やかな空間です。
すぐ収納してきれいに保つこと
スッキリ片付けている家になる様に、気をつけています。さらに居心地の良い家を目指しています。
そこそこ片付け、そこそこ清潔に
今までの暮らして家の中にあるものを整理して必要なものだけにしていくこと。
思い切った断捨離
取り出しやすくスッキリした収納

100歳住宅[®]
超高齢社会の『暮らしやすさ』を
インテリアから考える
指標づくり

発行
超高齢社会をインテリアから考える暮らしやすさ研究会
(一般社団法人日本フリーランスインテリアコーディネーター協会 研究会)

著者

松本佳津 関口和美 田崎由美子 白石絵理 田部亜紀 正木鈴子

発行日 2018年3月31日

デザイン

ちょいネラボ デザインチーム

2017年度 公益社団法人インテリア産業協会 研究助成事業

Copyright © Choilabo

